

江戸川学園おおたかの森専門学校

学校関係者評価委員会議事録

(令和3年度)

2022年9月

学校法人江戸川学園

江戸川学園おおたかの森専門学校

1. 学校関係者評価委員会開催概要

開催日時	2022年9月10日(土) 午後1時30分～午後3時00分		
開催場所	江戸川学園おおたかの森専門学校 F102 会議室		
参加者(敬称略)	江戸川学園おおたかの森専門学校後援会会長 江戸川学園おおたかの森専門学校同窓会会長 駒木自治会会長 社会福祉法人修央会 船橋笑寿会 相談室長 学校法人江戸川学園江戸川大学教授	川崎 一也 皆川 博行 渡邊 治 平尾 悟 神田 洋	
学校側参加者(オブザーバー)	江戸川学園おおたかの森専門学校 校長 " 副校長 " 副校長 " 副校長	原 頼信 杉野 聖子 原田 聖子 奥山 武浩	

2. 議事内容

学校関係者評価委員会の趣旨及び議事進行について	<ul style="list-style-type: none"> 江戸川学園おおたかの森専門学校副校長 奥山武浩(以下 奥山副校長)より議事内容・進行について説明があった。 本委員会開催に関し、「学校評価に関する関連法令」及び本委員会の開催主旨、評価結果の開示状況などについて説明がなされた。 議題は以下の2つになる。 <ol style="list-style-type: none"> 令和3年度(2021年度)・令和4年度(2022年度)の事業計画及び進捗について 令和3年度自己評価結果の説明および審議 議事内容・進行については、「学校自己評価報告書(令和3年度)」(各評価項目)に基づいて審議し、評価を行うこととした。
委員会の成立及び議長選出	<ul style="list-style-type: none"> 本日の参加者及び欠席者を確認(委員5名のうち5名出席)し、定足数(委員の過半数)に達していることを確認。 委員の互選により駒木自治会会長 渡邊 治氏(以下 議長(委員長))を議長(委員長)として選出。

(1)令和3年度・令和4年度の事業計画及び進捗について

<p>・奥山副校長より令和3年度・令和4年度の事業計画及び進捗について説明があった。</p> <p>学園の事業報告については「令和3(2021)年度事業報告書」として、本校HP上にて一般に公開している。</p> <p>その中で本校の事業概要として、</p> <ol style="list-style-type: none"> 教育目標・目的 留学生の本格的な受け入れ(介護福祉士学科) 新型コロナウイルス禍における授業展開 その他教育以外の活動 <p>を挙げている。コロナ禍も2年目になり令和2年度より対面授業の頻度を増やしている。学生の罹患状況は現在1週間に1、2名程度になっている。</p> <p>・江戸川学園おおたかの森専門学校副校長 杉野 聖子(以下 杉野副校長)より、4月より全面対面授業に戻すという案もあったが、学生がオンライン授業にも慣れる必要がある事、実習前2週間は感染拡大防止のためオンライン授業を実施する必要がある事から週1日オンライン授業を実施しており、円滑に授業をすすめ</p>
--

ていると説明があった。

・専門学校の財務について江戸川学園おおたかの森専門学校校長 原 頼信(以下 原校長)より学園全体では健全な財務状況になっていると説明があった。

(2)令和 3 年度自己評価結果の説明および審議

- I. 学校の現況
- II. 評価の基本方針
- III. 重点目標

	<p>・議長(委員長)より「学校自己評価報告書」内容(目次・各評価項目等)の説明が求められ、奥山副校長より「I. 学校の現況」、「II. 評価の基本方針」「III. 重点目標」に関して説明があった。沿革は令和 3 年度までの記述になっているが、令和 4 年度よりスポーツトレーナー学科が募集停止をしている。また「本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画」にある通り、令和 3 年度は教職員組織の改編や学科教育組織の再編成、教育課程の改正等を行った。</p>
--	--

IV. 評価項目の達成及び取組み状況

(1)教育理念・目標	<p>・議長(委員長)より、(1)の項目についての説明が求められた。</p> <p>・奥山副校長より、(1)の項目について、説明があった。</p>
(2)学校運営	<p>・議長(委員長)より、(2)の項目についての説明が求められた。</p> <p>・奥山副校長より、(2)の項目について、説明があった。</p> <p>・社会福祉法人修央会 船橋笑寿会 相談室長 平尾 悟氏(以下 平尾氏)より「情報システム化等による業務の効率化が図られているか」に関して、毎年情報化に関する自己評価が低い、具体的に情報化に取り組んでいることはあるかと質問があった。</p> <p>・杉野副校長より、コロナ禍に入る直前に学内システムが導入されて 1 年がたち、教員も学生も使いこなせるようになってきており、学生への周知等も円滑に進むようになった。その他はメールでの連絡になっているが、学生の見落としが多く、まだ指導が必要。業務効率化に関しては、事務効率化委員会を設置し、ペーパーレス化を含めて効率化を推進している。長期休業中の出勤体制、各クラスの授業予定などもオンラインで共有化し効率化を図っている。ただし既存のシステムを使っているため、まだ本校に合わせてカスタマイズする必要があると考えていると説明があった。</p> <p>・平尾氏より介護施設でも情報システムを導入しているが職員が慣れるまでに時間がかかると発言があった。</p> <p>・原校長より、通信課程でも本年度から課題提出、添削等全面的にオンライン化し、郵送料の削減、事務の効率化を図っていると説明があった。</p> <p>・奥山副校長より、情報システム化の推進というより、コロナ禍によって急いでオンラインでの授業配信等に対応しなくてはならなかったという側面があると説明があった。</p>

<p>(3)教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議長(委員長)より、(3)の項目についての説明が求められた。 ・奥山副校長より、(3)の項目について、説明があった。 ・学校法人江戸川学園江戸川大学教授 神田 洋氏(以下 神田氏)より、学生はオンライン授業、教育システム等を PC ではなくスマートフォンで使用しているのかと質問があった。 ・杉野副校長より、圧倒的にスマートフォンが多いと返答があった。 ・神田氏より、学生がスマートフォンで対応する前提で課題等を出しているのかと質問があった。 ・杉野副校長より、Word などのファイルを扱うことにも慣れてもらう必要があるのでそれ程意識しているわけではないと返答があった。 ・江戸川学園おおたかの森専門学校副校長 原田 聖子(以下 原田副校長)より、閲覧用のファイルを送信するときにはスマートフォンでも閲覧しやすいようにPDFにして送信するようにしていると発言があった。 ・原校長より、大学と違って学校で PC を配布していないのでどうしてもスマートフォンでの対応が多くなると発言があった。 ・原田副校長より、以前学生に PC 所有に関するアンケートを取ったが家にあるという学生は意外と多かった。家にはあるが使っていないという学生が多いのではないかと発言があった。 ・神田氏より現在、全国の小中学校では国の補助金でタブレット端末等を導入しているが、専門学校ではそういうわけにはいかないと発言があった。 ・杉野副校長より、現在はオンライン授業が週 1 日なのでそれ程支障はないが、全面オンライン授業になった場合は学生の負担が増えると説明があった。
<p>(4)学修成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議長(委員長)より、(4)の項目についての説明が求められた。 ・奥山副校長より、(4)の項目について、説明があった。 ・平尾氏より評価項目「退学率の低減が図られているか」に関して、退学者はどれくらい出ているのかと質問があった。 ・杉野副校長より、中退率は高く、1 割程度だったが、最近増えつつあると返答があった。 ・原校長より、令和 2 年度が特に多く 36 名、令和 3 年度は二十数名だった。1 年の夏実習で精神的にまいってしまい、夏季休暇終了後に退学するケースが多く、2 年生になると極端に減る。今年度は現時点で 6、7 名程度だがこれから増えてくるので 20 名以下に抑えるように生活面を含めて指導していきたい。また入学前に進路に対するミスマッチが起きないようにしていきたいと発言があった。 ・奥山副校長より、1 年の連休明けと夏休み中の実習終了後の二つ中退者の山がある。個別指導を実施して対応するようにしていると説明があった。

<p>(5)学生支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議長(委員長)より、(5)の項目についての説明が求められた。 ・奥山副校長より、(5)の項目について、説明があった。 ・平尾氏より、学校では離職者等再就職訓練を実施しているが、どれくらい再就職できているのかと質問があった。 ・杉野副校長より、80%以上再就職できなかった場合は次年度以降の離職者等再就職訓練を受託できない。さらに卒業してから半年は毎月定着支援としてアフターフォローをする必要がある等手厚く就職支援をしている。在学中から定期的に面談して就職を意識させるようにしていると返答があった。 ・平尾氏より、定着支援は大変手間がかかると発言があった。 ・杉野副校長より、電話やメールで連絡して、様子を聞いたり、悩み事の相談に対応したりしていると説明があった。 ・奥山副校長より、職業訓練生へはハローワーク等行政からも厳しい指導があると説明があった。 ・平尾氏より、受け入れる施設としても継続してのアフターフォローはありがたいと発言があった。 ・江戸川学園おおたかの森専門学校同窓会会長 皆川 博行氏(以下 皆川氏)より、コロナ禍で現在、同窓会の活動はほぼ停止しているが、会員がシステムにアクセスし情報を更新できるようにし、現在データベースを更新中なので、今後卒業生の現在の動向を把握しやすくなると発言があった。 ・原校長より、同窓会には昨年新型コロナウイルスワクチンの大学拠点接種を実施した際に首都圏の会員に一斉に DM を送付していただき、50 名ほどが参加することができたと発言があった。 ・皆川氏より、本年度の学園祭は実施する予定なのかと質問があった。 ・原校長より、対面で実施する予定であるが、従来通りの飲食の出店等は実施が難しい。展示や映像で、学校関係者の家族のみ参加で検討していると返答があった。 ・杉野副校長より、感染予防を徹底して実施できる企画を専門学校の実行委員も検討していると発言があった。
----------------	--

<p>(6)教育環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議長(委員長)より、(6)の項目についての説明が求められた。 ・奥山副校長より、(6)の項目について、説明があった。 ・神田氏より、評価項目「学内外での実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか」に関して、海外研修は実施しているのかと質問があった。 ・奥山副校長より、かつては大学と同様にオーストラリアやニュージーランド等への短期留学を実施していたが、ここ十数年は教育目的の海外研修等は実施しておらず、国内の実習施設等での実習を実施していると返答があった。 ・杉野副校長より、カリキュラムで実習が必修となっており、インターンシップを実施している福祉施設も増えていると発言があった。 ・奥山副校長より、かつての海外研修も、海外の施設を見学する目的だったが、養成施設のカリキュラム強化等の影響で実施する時間の余裕がなくなったと発言があった。 ・江戸川学園おおたかの森専門学校後援会会長 川崎 一也氏(以下 川崎氏)より、インターンシップの受け入れ状況はどうかと質問があった。 ・原校長より、施設の見学会や体験をインターンシップとして実施している施設があると返答があった。 ・杉野副校長より、施設では実習とインターンシップを分けて実施している。見学会等をインターンシップと言っているケースや、通常インターンシップを実施しているケースがあると発言があった。 ・川崎氏より、インターンシップ参加で単位取得ができるのかと質問があった。 ・杉野副校長より、単位取得はないと返答があった。 ・奥山副校長より、就職活動の一環だと発言があった。 ・皆川氏より、インターンシップは施設側から依頼されることが多いということかと質問があった。 ・杉野副校長より、そういうケースが多い。施設体験自体が入社試験になっている施設もあると返答があった。 ・原田副校長より、学生から就職希望の話があったときは、施設体験をさせてもらうように勧めるようにしていると発言があった。
----------------	---

<p>(7)学生の受入れ募集</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議長(委員長)より、(7)の項目についての説明が求められた。 ・奥山副校長より、(7)の項目について、説明があった。 ・原校長より、入試スケジュールについて発言があった。6/15にAO入試(統合型選抜)のエントリー開始、7月に面接を開始し、合格した学生には8/1以降に入学許可を発行し願書を提出してもらう。10/1から公募推薦、指定校推薦を開始、10月末から12月にグループ面接を実施し、AOエントリーも並行して受け付ける。指定校推薦は4年前から開始し、約200校に依頼しており、現在募集数が一番多くなっている。 ・神田氏より、大学でも圧倒的に指定校推薦が多くなっていると発言があった。 ・川崎氏より、指定校は首都圏だけで200校もあるのかと質問があった。 ・原校長より、千葉県、埼玉県、茨城県の私立・公立、一部通信制高校が含まれる。出願があるのは30~40校程度になっている。一番多い学校で一学科3、4人の出願があると返答があった。 ・川崎氏より、学費は前年度から変更しているのかと質問があった。 ・原校長より、変更していないが指定校推薦では入学検定料を免除している。来年度から参加する実習の時間により、実習費を細かく指定するように変更する。また通信課程では来年度カリキュラムの大幅な変更があり、実習時間が大幅に増えるので、実習のある学生は学費を引き上げると返答があった。
<p>(8)財務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議長(委員長)より、(8)の項目についての説明が求められた。 ・奥山副校長より、(8)の項目について、説明があった。 ・原校長より、評価項目「中長期的に学校の財務基盤は安定しているのか」に関して説明があった。学園全体では財務状況は安定している。専門学校単体では福祉系の学校全体で入学者数が大幅に減少している中、2017~2018年度は学生数が300人を下回り、赤字もピークになった。その後留学生受入、人件費・広報費の見直し、学科の統合等を実施し、2021年度決算では赤字がかなり減少している。入学者数にもよるが、2023年度の黒字化を目標にしている。資金繰りの面では、減価償却費を考慮すると資金収支では2020年度から黒字化している。 ・原校長より、評価項目「財務について会計監査が適正に行われているか」に関して、法人本部で監査法人に依頼して学園全体で監査を行っている」と説明があった。 ・原校長より、評価項目「財務情報公開の体制整備はできているか」に関して、学園全体として事業報告書の中で財務情報を公開しており、ホームページにも公開していると説明があった。
<p>(9)法令等の遵守</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議長(委員長)より、(9)の項目についての説明が求められた。 ・奥山副校長より、(9)の項目について、説明があった。本校は国家資格を付与する養成課程を設置している関係上かなり厳格に法令等を遵守している。養成施設ごとに国や県による監査が数年ごとに実施されている。

<p>(10)社会貢献・地域 貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議長(委員長)より、(10)の項目についての説明が求められた。 ・奥山副校長より、(10)の項目について、説明があった。 ・議長(委員長)より、自治会でも、コロナ禍で学校に神輿への協力を依頼できていない。コロナ禍終了後、また協力をお願いしたいと発言があった。 ・奥山副校長より、例年参加していた流山ロードレースへのボランティアも参加できていない。今年は開催予定だがボランティア募集も制限されていると発言があった。 ・議長(委員長)より、自治会では総会も実施できず事前決議をしているので、ボランティア依頼の計画もできていないと発言があった。 ・平尾氏より、高校との連携授業は学生募集のためにも重要だと思うが、コロナ禍でどのようなになっているのかと質問があった。 ・原校長より、高校からの依頼は今年になってから昨年度の倍ほどまで増えている。高校教員との繋がりが強いほど、色々な情報が入ってくる。また入学後の学生の動向をお伝えすること等で信頼関係を気付くことができ、学生募集のために重要だと考えている。高校を回っている専門学校は少ないので、うまく機能していると思うと返答があった。
<p>(11)国際交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議長(委員長)より、(11)の項目についての説明が求められた。 ・奥山副校長より、(11)の項目について、説明があった。 ・原校長より、評価項目「留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか」に関して説明があった。千葉県留学生受け入れプログラムの一期生 23 名が今年の春に入学、来年度入学予定が 22 名、これからマッチングし来年来日予定が最大 25 名となっており、受け入れ数は安定している。その他の留学生は首都圏の日本語学校にいる介護希望の学生と施設のマッチングをして受け入れている(今年度は 7 名)。 ・原校長より、評価項目「留学生の受入・派遣、在籍管理等において適切な手続き等が取られているか」に関して、入国管理局から適正校の指定を受けており、ビザの更新等はスムーズに実施できていると説明があった。 ・原校長より、評価項目「学修成果が国内外で評価させる取り組みを行っているか」に関して、これまで留学生 50 名が卒業し、全員介護施設に就職しており、施設からは評価されていると説明があった。
<p>総括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議長(委員長)より、すべての項目について審議(評価)は終了したが全体を通して何か意見・質問等があるか確認がなされた。